

### 1 PLAN(目的・概要)

政策名	港湾の安全確保と大規模災害にも対応できる地域防災を目指した港づくり		30年度事業・施策評価結果		責任者	建設部 事業推進課	
施策名	地震・津波対策の充実・強化		成果	コスト			
事務事業名	防潮壁改良事業				連絡先	052-654-7921	
目的	対象(誰・何を)	防潮壁(護岸)			事業期間	平成19年度～	
	意図(どうい う状態にしたいか)	地震・津波対策及び老朽化対策として防潮壁(護岸)を改良し、防護機能を回復・強化します。					
概要	整備地区: 大手ふ頭・中川口地区、築地・ガーデンふ頭地区、築地東ふ頭地区、大江ふ頭地区、昭和ふ頭地区、潮見ふ頭地区、大江川地区 内容: 地震・津波対策及び老朽化対策 事業手法: 防災・安全交付金(高潮対策事業、海岸堤防等老朽化対策緊急事業)					根拠法令等	社会資本整備重点 計画法 海岸法(海岸保全基本計画)
令和元年度の実施予定	地震・津波対策として、築地東ふ頭地区、昭和ふ頭地区、潮見ふ頭地区の防潮壁改良を行うとともに、大手ふ頭地区、大江ふ頭地区、昭和ふ頭地区、潮見ふ頭地区の土質調査及び設計を行います。さらに、老朽化対策として、船見ふ頭地区の設計を行います。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
						関連シート	

### 2 DO(実施)

令和元年度に実施した内容・結果	築地東ふ頭地区、昭和ふ頭地区、潮見ふ頭地区の防潮壁改良を行うとともに、大手ふ頭地区、大江ふ頭地区、昭和ふ頭地区、潮見ふ頭地区の土質調査及び設計を行いました。さらに、老朽化対策として、船見ふ頭地区の設計を行いました。また、事業進捗を図るため、国への要望活動を行い、補助事業化が認められました。					
コスト	単位	29年度	30年度	元年度	合計	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	592,090	228,610	693,046	1,513,746	平成19年度から事業を開始、平成27年度の海岸基本計画の変更に伴い整備延長を見直した。
人件費	千円	4,136	4,149	3,486	11,771	
合計	千円	596,226	232,759	696,532	1,525,517	平成27年度以降、2,541,400千円

### 3 CHECK(検証)

成果目標名	29年度	30年度	元年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
整備延長(km) (全9.6km) (進行管理型)	目標	0.87	1.04	1.74	4.2(累計)	整備延長は、改良が完了した延長です。	
	実績	1.07	1.10	1.30			
	事業進捗状況(元年度)			順調・ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">やや遅れ</span> ・遅れ			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	目標					令和元年度は費用のかかる地盤改良工を主に行ったため整備延長が伸びにくい結果となりましたが、翌年度以降に残りの工程を実施し整備進捗を図ります。	
	実績						
	事業進捗状況(元年度)						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ 背後地域の生命・財産を守るため、必要性は高いと考えております。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○					
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ 防潮壁の改良による機能強化は上位施策である「地震・津波対策の充実・強化」に貢献すると考えております。					
	期待どおりの成果が得られているか?	△ 令和元年度は費用のかかる地盤改良工を主に行ったため、整備延長が目標に到達できませんでした。。					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ コストが最小になるよう精査して事業を進めています。					

### 4 ACTION(取組)

施策評価結果	2年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	拡大	拡大	名古屋港の防災機能を強化し、背後地域の生命と財産を守るため、事業実施の一層の進捗を図る必要があるため。
	資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、成果をあげる必要がある。		
課題			2年度以降の取組
引き続き国への要望活動を行い、事業規模の拡大を図る必要があります。また、防潮壁背後には事務所等が立地し、狭い場所での施工となるため、利用者調整を行いながら事業進捗を図っていく必要があります。			防潮壁の改良は、事業規模の拡大を図るとともに、背後地の利用者調整を進め、整備進捗を図っていきます。